

式 辞

春の息吹と柔らかな瀬戸内の光がこの平和公園内に満ち溢れています。国際平和都市広島を象徴するこの地において、難しい試験を乗り越えた 704 名の皆さんを県立広島大学の新入生としてお迎えできましたことは、私たちの大きな慶びとするところです。おめでとうございます。併せて、入学許可を受けてここに立たれている皆さんをこれまで支えてこられました保護者の方々に、県立広島大学を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。さらに、ご多用の中、本日は広島県知事 湯崎英彦様、広島県議会議長 山木靖雄様を始め、多くのご来賓の皆様にご臨席いただきました。誠に有り難うございます。

それでは最初に、皆さんが門をくぐられました、我が県立広島大学についての紹介からお話を始めたいと思います。かつて広島県内には、3つの県立大学が存立し、それぞれの地域において、特徴ある歴史を刻んでいました。まず広島市においては、今を遡ること 98 年前、県立広島高等女学校の 2 階に間借りした形で専攻科を設置したことに由来する県立広島女子大学、そこでは、日本芸術院会員であり、女流文学賞を受賞された作家の竹西寛子先生を始めとする、多くの文化人や有能な女性人材を社会に輩出してきました。一方、庄原市にありました広島県立大学は、伝統的に生命科学分野で優れた研究実績を残した大学でもありました。例えば、優れた女性科学者に対し、日本で毎年たった一人授与される猿橋賞がありますが、庄原キャンパスに在職し、研究をした教員がその賞を獲得しています。そしてまた三原市にあった広島県立保健福祉大学は、医療介護分野の実践力を身に付ける学生教育で高く評価されると共に、三原市と連携しながら地域の健康作りに大きな貢献をしてみりました。

こうした各大学の特徴と強みを集約し、広島県を一つのキャンパスとして 3 大学が 13 年前に統合して開学した大学が、皆さんがこれから学ぼうとする県立広島大学です。従来の 3 キャンパスに 4 学部を設け、大学院は総合学術研究科とさらに 2 年前、中国地方の大学で初めての、経営専門職大学院を設置して総合大学としての体制を整えています。開学以来、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を基本理念に据えた知の創生拠点として着実に実績を積み重ねてきました。

現在までの歩みを振り返ります。まず教育について言えば、全国でもトップレベルの国家試験合格率、最新のデータでも 5 つの分野で 100% を達成しました。そして 99% の就職率、91% にも達する学生の授業満足度、また学部生でありながら、国際的な科学雑誌への論文発表や学会からの若手研究奨励賞を受けるなど、幾つもの優れた成果を挙げるができます。

一方、研究についてはどうでしょうか。本学教員の研究力には誇るべきものがあります。例えば大学研究力の指標とされている、文部科学省による科学研究費助成事業の採択件数があります。本学では統合した後めざましく増加し、現在は統合前の 2 倍以上を獲得して、

11年連続で中四国・九州・沖縄27公立大学のトップに位置しています。本学教員の確かな研究力は、学生への質の高い教育の提供に結びつき、しっかりとした知識力と技術力を身に付けた学生が育っています。

2014年、県内外の34企業に対して行った大手の民間調査機関の結果によって、本学の学生は近隣の国公立大学に比較し、基礎学力と共に愚直力、すなわち勉学に真摯に取り組む姿勢、まじめさ、諦めない忍耐力の点において圧倒的に優位であることが示されました。

こうした本学の学生の特質である愚直力は、人間が成長する上での大事な資質であり、私たちの誇りとしているところです。しかしながら同時に、本学の教職員は、愚直力だけでは、これからの社会は乗り切れない現実をしっかり認識しています。著しいグローバル化の進展、そして人工知能(AI)やIoTの発達によって、激変する社会の到来が現実のものになろうとしているからです。2015年、野村総合研究所が公表した「日本の労働人口の約49%が就いている現在の職業は、20年後までには人工知能(AI)やロボット等に代替される」との推計結果が、明確に現実味を帯びてきています。

これからの20年後、それはまさに皆さんが社会の中堅として活躍する時代でもあります。しかし決して不安を感じる必要はありません。むしろ私たちは、そういう時代にこそ、皆さんが輝くリーダーとなって活躍することを目的とした教育的対策をいち早く打ち出し、2013年度から、教育改革推進委員会を立ち上げ、その実践に取り組んできました。改革の目的は、『社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を能動的に発見し、解決しうる実践力を養う』ということです。自ら主体的に学ぼうとする積極性を身に付ける教育、すなわちアクティブ・ラーニングを介し、これからの激変する社会において有用な、指導的役割を担える志と創造力の育成に取り組んでいます。

このアクティブ・ラーニングとは、授業内に討論や発表を導入したり、あるいは授業する前日にあらかじめ予習を課す反転授業など、さまざまな手法で皆さんの積極的に授業に参加しているという意識を高めるもので、次世代の学生の志や実践的な創造力を培う教育的手法です。今や全国のほとんどの大学が、その教育的効果を認め、競って教育実践のスローガンに掲げて活発に取り組んでいます。

ここで強調したいことは、私たちの大学はアクティブ・ラーニングの実践において、全国をリードする立場であるということです。2014年、私たちが取り組んでいる教育プログラムが評価され、文部科学省よりアクティブ・ラーニングを推進するモデル校に選ばれました。これは全国に750以上ある大学の中から選ばれた9校の一つという価値あることです。さらに、採択後4年を経た現在、取り組み成果の中間評価として、先月A判定を受けたことによってその実践の確かさを証明されています。

私たちは皆さんに対し、日本国内でトップレベルの教育内容により、主体的に学ぶ姿勢を育成し鍛え上げることをお約束します。思う存分、これからの大学生活において、自ら積極的に学ぶ力を養い、知る喜び、学ぶ喜びを限りなく本学で体験してください。しかし

本学の教育がどんなに優れたものであっても、皆さんの実りにするためには「学びたい」という意欲が前提条件です。未来のあなた自身は、これから自分が作るということを心に刻んでください。このことに併せ、8年前に亡くなった事業家であり、多くの啓発を私たちに与えてくれたジム・ローンという言葉を紹介いたします。

「収穫は種を植えた人だけに訪れる。祈った人ではない」

私たち教職員一同は、本学への扉を叩いた学生一人一人にしっかりと向かい合いながら、精一杯、学生の自己実現を支援していくことをお約束して私の辞を閉じたいと思います。

平成三十年四月五日

県立広島大学長 中村 健一